

令和元年度 第1回奈良市地域包括支援センター運営協議会の意見の概要	
開催日時	令和元年8月28日(水) 午後3時15分から午後4時30分まで
開催場所	奈良市役所 北棟6階 第22会議室
意見等を求める内容等	1 平成30年度奈良市地域包括支援センターの運営状況の報告について 2 令和元年度奈良市地域包括支援センターの運営及び支援体制について
参加者	出席者 12人・事務局 12人
開催形態	公開(傍聴人 2人)
担当課	福祉部福祉政策課
意見等の内容の取りまとめ	
<p>○議事録署名人について 座長が議事録署名人2名を指名した。</p> <p>○事務局による報告の後、出席者に意見等を求めた。</p> <p>≪報告内容≫</p> <p>【議題1】 平成30年度奈良市地域包括支援センターの運営状況の報告について</p> <p>(1) 業務実績について</p> <p>①業務委託確認結果、②地域包括支援センター別取り組み事例紹介及び課題、③主な相談業務対応件数、④介護予防支援事業委託及び介護予防訪問介護相当サービス等、⑤人員配置状況、⑥地域包括支援センター支援状況、⑦センター長会議について報告</p> <p>(2) その他支援施策の報告について</p> <p>①生活支援体制整備事業(生活支援コーディネーター設置)実績、②奈良市在宅医療・介護連携支援センター事業実績、③奈良市権利擁護センター運営事業実績について報告</p> <p>【議題2】 令和元年度奈良市地域包括支援センターの運営及び支援体制について</p> <p>①奈良市基幹型地域包括支援センター事業実績、②地域包括支援センター別高齢者の状況について報告</p> <p>≪委員からの意見・議論等≫</p> <p>委員：地域包括支援センターの職員研修の講師は3回ともセラピストで、介護予防イコールリハビリという捉え方をされているように感じた。</p>	

座長：研修は作戦を組んでやっていただくようお願いしたい。規模の小さな介護保険事業所では研修が少ない。介護保険の利用者のためにも研修は必要であると思う。

委員：1回の研修で全内容を網羅する研修はできないので、その時の事由に合ったテーマでやっていただきたい。

座長：地域包括支援センターを13カ所に増やして、受託法人も地元に着して地元の為に働いて下さりありがたい。業務の中身がベテランの専門職でないと務まらない。保健師の配置要件を地域医療の看護師でも可能と改正したが、若い保健師より、ベテランの看護師の方が望ましい場合も多いので、専門職の質の確保は難しい。地方では人口規模の小さな町は直営の地域包括支援センターが多い。市で基幹型地域包括支援センターを設置するのが望ましいと思う。

委員：市の直営では限界が来ているので、委託を推奨しないといけない。ただし、単に委託するだけではなく、質の向上を図ることが今後の課題。

委員：地域包括支援センターが健全に頑張っておられることが今日の報告でわかった。地域包括支援センターが頑張れば、仕事もすれば、人員も必要になる。市の予算のなかで福祉、介護に関する予算の措置をお願いしたい。

基幹型地域包括支援センターが奈良市全域を担当することは大変だと思う。今後は2カ所の基幹型地域包括支援センターが必要になってくるかもしれない。

委員：基幹型地域包括支援センターができたので、お願いしたいことが2つある。

地域包括支援センターの職員の力量の差が出てしまうと、圏域内のケアマネジャーの指導支援に格差が生じてしまい、ケアマネジャーの業務に支障がでてしまう。研修体制を見直し、地域包括支援センターの職員の資質向上を図っていただくというのが大事。研修は職種別や経験年数に応じたきめ細かい形で研修を行っていただければいいか。

ケアマネジャーから自立支援型の地域ケア会議についての質問があり、奈良市の中で、地域ケア会議の対象者、会議の進め方、内容については決まっていないので、現場のケアマネジャーから不安の声が出ている。自立支援型の地域ケア会議がどんなものであるのか、全体像も含めてもう少し計画していただく必要がある。

委員：ケアマネジャーの力はすごく大事で、仕事の量が多く激務。地域包括支援センターの業務内容には、精神疾患に関する相談、認知症に関する相談、入退院の相談もあり、問題が溢れている。これらをよく吟味されて問題点を分析されたらさらにこれからの地域包括支援センターの役割が介護保険だけではないとわかると思う。

以上